

平成 30(2018)年度環境学習出前授業の実施結果について

平成 31(2019)年 3 月 29 日
栃木県環境森林部廃棄物対策課

1 環境学習出前授業について

廃棄物処理施設に対する理解促進を目的に、県内の小学校を対象に、県と関係団体で制作した「廃棄物処理施設紹介動画」等を活用しながら、廃棄物が資源として再び生まれ変わる様子や廃棄物処理施設の役割等を分かりやすく説明し、環境に優しい循環型社会の形成について学べる授業を行いました。

- ・対象：県内の小学校
- ・講師：廃棄物対策課、各環境森林事務所及び小山環境管理事務所職員等

2 実施結果

実施月	実施数	児童数※	実施市町
9月	1校2クラス	61人	那須塩原市
10月	2校4クラス	120人	小山市
12月	1校3クラス	82人	下野市
合計	4校9クラス	263人	3市
4学年	2校5クラス	150人	
5学年	2校4クラス	113人	

※人数は、応募時のクラス在籍者数から算出

2 授業内容（およそ 80 分間）

(1) 座学「学ぼう！ごみを処理する施設」

ごみ（廃棄物）とその処理をするごみ処理施設について、スライド及び動画を用いて授業を行った。授業では、家庭から出る生活ごみ（一般廃棄物）だけではなく、私たちが日頃使うものを製造する工場等から出るごみ（産業廃棄物）も私たちの身近なごみであること、また、これらのごみを適切に処理・リサイクルすることが環境保全や循環型社会の形成のために重要であることを説明した。



(2) リサイクル製品ゲーム

廃棄物の種類、処理の方法、できるリサイクル製品を線でつなぐ「リサイクル製品ゲーム」を通じて、廃棄物を処理することでさまざまなリサイクル製品が作られていることを学んでもらった（グループワーク、発表）。



(3) 座学「ぼくたち、わたしたちにできること（3R）」と環境すごろく作成

リサイクルのために、自分たちができることとして、3Rの取組を学んでもらった（授業時間により、「ぼく（わたし）の3R」を発表）。

また、環境すごろくを作成し、廃棄物の処理やリサイクルに関するマスを自ら考えることで、授業の振り返り学習とした。



(4) 働くクルマ～パッカー車

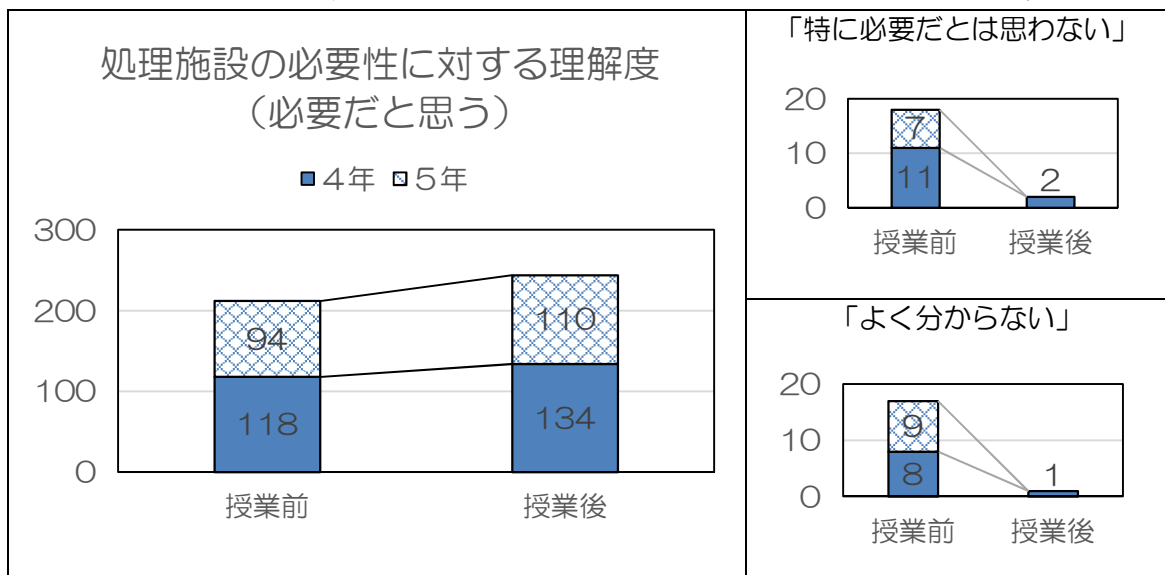
（公社）栃木県産業資源循環協会青年部の協力により、パッカー車（ごみ収集車）の仕組みやごみ収集の仕事などについて、実物を見ながら学んでもらった。また、パッカー車を操作する作業を体験してもらった。



3 授業後のアンケート結果

○アンケート回答数： 計9クラス 247名

○授業前後における廃棄物処理施設の必要性に対する考え方（単位：人）



○授業の感想

- ・ごみはリサイクルして、色々な物に生まれ変わると分かった。
- ・「ごみを処理する施設」はやっぱり必要だと思った。
- ・ごみは大変な工程を繰り返し、リサイクルされているので、リサイクルが大変にならないよう、ごみを分別していきたい。